

り、先生のお話を伺ったりするので、他の人よりは知識があつたかもしれませぬ：それでもまんまと(笑)、なつてしまつたわけですけども。

それでもいざなつてみたら、それまで漠然と思つていたのは全く違つていたことがたくさんありました。

がんはみんな罹る身近な病気

「ご関心もあり知識もあつた山田さんが実際にがんとわかつた時、大きなショックは感じられましたか。」

山田 ショックが無くはないでしょうね。それでも知識はあつたほうがいいと思います。私の場合は、もともと深くものを考えない(笑)、明るい性格です。考へて落ち込むということはありませんでした。

それと、一番良かったのは、お医者さんとの出会いだと思います。自分と相性の合う先生に最初から会えました。

すごく褒めてくれたんですよ。「よかつたですね、早期だった。ラッキーだ、ラッキーだ」と言うので、「ああ、良かった」という気持ちのほうが強くなつて、告知で落ち込んだりすることはなかつたですね。「見つかつてよかつた」と思いました。

今でも講演でよく言いますが、ここが運命の分かれ道でした。これがもし進行が進んでいれば、こういう答えにはならないわけですね。大変な治療が



必要ですし、手遅れとなれば死ぬわけですから。ただ、手遅れでなければ必ず助かるんです。完治はしないからいろいろ面倒くさいこともあります。けれども、何も病気をしない人よりも体のことに気をつけるので、病気を背負つたままずっと長生きすることが多いのです。よかつたと言うと変ですけど、早期発見して早期治療ができたことに感謝しています。

「2人に1人はいずれ何らかのがんになる」と中川先生が懇談会でもおっしゃっています。

「2人に1人はいずれ何らかのがんになる」と中川先生が懇談会でもおっしゃっています。

山田 そうなんです。そう言われてみれば、身近でもよく聞きますね。だから「ああ、来たか」というぐらいで。

たとえ今日「治らないかもしれない」と言われても明日は治りますよ。医学はどんどん進歩しているの、望みを捨てずに前向きに、明るく元気にしようのが、一番言いたいところです。

まさに懇談会で中川先生がおつちやつたように、「山田さんのそういうところに負つて」が非常に大きい」と。

山田 中川先生はするいんですよ(笑)。座長をして自分だけ格好いいんですよ。それで議題に詰まると「山田さん、どう思いますか」と、私をブレイクタイムに使っているところがあるんです(笑)。

ただ、後で議事録が回つてきて、まるで落語の本のように全部ちゃんと書き取つてあるのが素晴らしいと思ひました。ホームページで公開されていて、全国で見られますので、責任重大だと思つています。

病院は忙しすぎる

「検診あるいは治療と、病院とのおつき合ひは長いようですが、病院について直したほうがいいと思つたことがありましたらお話しいただけますか。」

山田 関東では「乳がんと言えはS病院」というところがあつて、行きつけの病院ではなかつたのですが、S病院に伺いました。

本当に驚いたのは、患者さんが多くて、予約を取つて行つていくのにすく